

意見のまとめ

第9回 活力ある学校づくり検討委員会

平成29年10月5日(木)

資料2-1

どの発達段階にあっても
「集団の学び」が大切

&

できるかぎり
「地域に学校を残したい」

「新たな学びの場」を考える3つの視点

I 発達段階に応じた学びはどのようにあるべきか

- ・友達との遊びの中にも学びの勉強もあり、気づかぬうちに学ぶ意欲・態度や人間性等の学力を育んでいる(B20)
- ・小学校高学年以上では集団の中で学び、専門的な学びや多様な経験が大切(A4・7)
- ・小学校高学年と中学校の学力的な連携が大事(A5)
- ・小学校中学年までは少人数になった場合、地域の見守りの中で育つことや通学距離の問題も配慮したい(A6)

イメージ案
資料2-2

II 発達段階に応じた学びを実現するための規模はどのくらいか

- ・協働学習や共同作業により、子ども同士が互いの学びあいを通じて自己の考えを広げ深めることが大切(A14・15・19、B25・32・33)
- ・音楽や体育はある程度の集団が必要ではないか(A16)
- ・学年があがるにつれ大きな集団環境が大事ではないか(B31)
- ・少なくとも小学校高学年以降は学年に複数の学級が望ましい(B26)
- ・学級数が少ないと教員の数(教員配当基準)も少なくなり、学習保障(特に専門的な教科)や教育の質(教員研修等)の保障が難しい(A13、C38・39・44)
- ・財政面から、小規模校が増えることは、ある程度の歯止めが必要ではないか(C40)
- ・PTA役員等の保護者負担も考える必要がある(C37・43)

III 地域との関わりから

- ・地域により地域とのつながり方が異なり、それぞれの地域にあった学校群を考えたらどうか(D52・53・54)
- ・施設の複合化や多機能化の検討も必要ではないか(C45)
- ・通学区と行政区はいずれは一致させるべきではないか(E61)

「発達段階に応じた集団の学び」と「できる限り地域に学校を残す」ことを考慮した

発達段階に応じた「新たな学びの場」のイメージ(案)

【小学校の学び】

- ・集団での学びが必要
- ・友達との遊びの中にも学びの勉強もあり、気づかぬうちに学ぶ意欲・態度や人間性等の学力を育てている
- ・高学年は、集団の中で学び専門的な学力を育成することが大切
- ・高学年は、中学校との学力的な連携も必要

小・中の連携

高校生 18歳

幼保・小の連携

0歳

幼・保園等

年長

小学校
低学年 小1 小2 小3
中学年 小4 小5
高学年 小6

中学校
中1 中2 中3

【中学校の学び】

- ・集団の中で学び、専門的な学びや多様な経験を優先し、その中で培われる社会性や自立性などが保障されるべき

☆生徒数が減少した場合は…

- ・小学校高学年より大きな集団が必要ではないか

☆児童数が減少した場合は…

【低・中学年は…】

- ・少人数であっても、地域の見守りの中で子どもが育つことや通学距離の問題も配慮が必要ではないか
- ・他校との交流行事・授業、異年齢交流や地域・幼保園との連携により集団の確保が必要ではないか

【高学年は…】

- ・学年に複数の学級があることが望ましいのではないか